課題

年　　組　名前

さっぽろ雪まつりの歴史

さっぽろ雪まつり［第1回］雪像セザンヌのモニュマン
（出典：さっぽろ雪まつり40回記念写真集）

雪まつりは、(　　)年に、地元の中・高校生が(　　)つの雪像を大通公園に設置したことをきっかけに始まりました。雪合戦、雪像展、カーニバル等を合わせて開催、(　　)万人あまりの人出で予想以上の大人気でした。以後、札幌の冬の行事として市民に定着していくことになります。

1953年には、高さ15メートルの大雪像「昇天」がはじめて作られました。1955年には、(　　)が参加し、大規模な雪像づくりに挑戦。第10回開催の1959年には雪像制作に2,500人が動員、はじめてテレビ、新聞でも紹介され、翌年からは(　　)からの観光客も増えて大盛況となりました。こうして、札幌の雪まつりから(　　)の雪まつりへと発展していきました。

1965年、第二会場として真駒内会場を正式に設置。1972年には、冬季オリンピックが札幌で開催、「ようこそ札幌へ」のテーマで雪まつりは(　　)に知られるようになります。

1974年はオイルショックで試練の雪まつりとなりました。雪はこびトラックのガソリンが手に入らず、雪像の中にドラム缶を入れるなどして乗り切りました。この年から(　　)もスタートしました。

さっぽろ雪まつり［第27回］ミュンヘン広場
（所蔵：札幌市公文書館所蔵）

1974年以後、瀋陽、アルバータ州、ミュンヘン、シドニー、ポートランドなど札幌とつながりの深い外国地域の雪像が制作され、(　　)あふれるイベントとして発展しました。その後、第34回開催の1983年から3番目の会場として「すすきの会場」が登場し、ネオンに輝く氷像が評判を呼び、雪まつりの新たな一面を開拓するとともに、1984年から会期を2日間延長し7日間するなど、(　　)の多くの人々に愛されるまつりへと成長を続けてまいりました。

2005年で40年続いた真駒内会場が閉鎖し、2006年から2008年はさとらんど会場を開設、2009年からは第2会場をつどーむ会場とするなど、新たな雪まつりの創出に向け(　　)しつづけています。

開催年 （開催回数）	おもなできごと
1950年 （第1回）	地元の中・高校生が（　　）つの雪像を大通公園に設置。
1953年 （第4回）	高さ15メートルの大雪像「昇天」がはじめて作られた。
1955年 （第6回）	（　　）が参加し、大規模な雪像づくりに挑戦。
1959年 （第10回）	雪像制作に2,500人が動員、はじめてテレビ、新聞でも紹介。
1960年 （第11回）	（　　）からの観光客も増えて大盛況
1965年 （第16回）	第二会場として真駒内会場を正式に設置。
1972年 （第23回）	冬季オリンピックが札幌で開催。 雪まつりは（　　）に知られるようになる。
1974年 （第25回）	国際雪像コンクール開催。瀋陽、アルバータ州、ミュンヘン、 シドニー、ポートランドなどの札幌の姉妹都市の雪像も制作。
1983年 （第34回）	第三会場として「すすきの会場」が登場し、ネオンに輝く 氷像が評判に。
1984年 （第35回）	会期を2日間延長し（　　）日間に。
2005年 （第56回）	真駒内会場が閉鎖
2006年から 2008年 （第57～59回）	さとらんど会場を開設。
2009年 （第60回）	第二会場をつどーむ会場に。